

別添資料 1

一般社団法人 日本臨床救急医学会

各種委員会

活動報告（令和3年度）

活動計画（令和4年度）



令和4年5月

**一般社団法人 日本臨床救急医学会
各種委員会 活動報告(令和3年度)・活動計画(令和4年度) 目次**

1	編集委員会	P.1
2	総務委員会	P.2
	1) 高齢者救急に関する小委員会	P.3
	2) 災害支援としての院外画像検査活動体制についての検討小委員会	P.4
	3) 新型コロナウイルス感染症の入院基準策定に係る検討小委員会	P.5
3	メディカルコントロール検討委員会	P.6
	1) 新型コロナウイルス対応検討WG	P.7
4	会則検討委員会	P.8
5	教育研修委員会	P.9
	1) PEMEC企画運営小委員会	P.10
	2) 救急・集中治療における薬剤師研修コース運営小委員会	P.12
	3) J-MELS企画開発小委員会	P.13
	4) JTAS2017企画運営小委員会	P.14
	5) ISLS2018検討小委員会	P.15
	6) NAEMT教材開発・コース運営小委員会	P.16
	7) 循環器救急疾患の病院前救護検討小委員会	P.17
	8) 入院時重症患者対応メディエーター養成小委員会	P.18
6	評議員選出委員会	P.19
7	広報委員会	P.20
8	公益信託丸茂救急医学研究振興基金運営委員会	P.21
9	学校へのBLS教育導入検討委員会	P.22
10	自殺企図者のケアに関する検討委員会(自殺企図者のレジストリー構築WG含む)	P.23
	1) 病院前救護における自殺企図者のケア方法を普及させるためのワーキンググループ	P.24
	2) COVID-19流行期におけるPEECコース再開のための小委員会	P.25
11	国際委員会	P.26
12	救急認定薬剤師認定委員会	P.27
13	緊急度判定体系のあり方に関する検討委員会	P.28
14	研究倫理委員会	P.29
15	小児救急委員会	P.30
	1) 小児病院前救護トレーニングコース開発WG	P.31
16	患者安全検討推進委員会	P.34
17	傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生のあり方に関する普及委員会	P.35
18	法執行機関との医療連携のあり方に関する検討委員会	P.36
19	蘇生ガイドラインと救急蘇生法検討委員会	P.37
	1) JRC蘇生ガイドライン対応ワーキンググループ	P.38
	2) バイスタンダー体制検討ワーキンググループ	P.39
20	救急活動時の救急隊の活動向上に向けた検討委員会	P.40
	1) 救急隊活動におけるパフォーマンス向上検討小委員会	P.42
特別委員会		
	AMLS第3版編集委員会	P.43
	緊急度判定支援システム JTAS2022ガイドブック編集委員会	P.44
	PEMECガイドブック改訂に関する編集委員会	P.45

【編集委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 鉦方 安行

【担当理事】 佐藤 憲明 （小委員会・WGは除く）

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和3年8月27日（金）	「令和2年度活動報告について／令和3年度活動計画について／編集委員会再編について／投稿規定の改訂について／バックナンバーのJ-STAGE掲載について」
令和3年11月8日（月）	「編集委員会（令和3年10月～令和5年9月）について／令和2年度活動報告について／これまでの編集方針について〔前編集委員長（行岡秀和先生）より〕／今期の編集方針について〔編集委員長（鉦方安行先生）より〕／オンライン編集査読の手順について」

2. 報告内容

II 会誌編集・発行状況

第24巻の第1～6号、（第2号は総会号）を発刊した。

●受付原稿数（ ）内は総会発表演題の推薦投稿論文数

総説	4	本	（ 0 ）	本
原著	25	本	（ 6 ）	本
調査・報告	36	本	（ 9 ）	本
症例・事例報告	40	本	（ 5 ）	本
資料	1	本	（ 0 ）	本
研究速報	2	本	（ 0 ）	本
Letter to editor	0	本	（ 0 ）	本
不明（未確定）	0	本	（ 0 ）	本
合計	108	本	（ 20 ）	本

●原稿など掲載状況（第24巻1, 3～6号）

総説	1	本	（ 12 ）	頁
原著	28	本	（ 230 ）	頁
調査・報告	29	本	（ 143 ）	頁
臨床経験	0	本	（ 0 ）	頁
症例・事例報告	27	本	（ 192 ）	頁
資料	0	本	（ 0 ）	頁
研究速報	2	本	（ 5 ）	頁
Letter to editor	0	本	（ 0 ）	頁
その他	0	本	（ 0 ）	頁
会告など			（ 73 ）	頁
合計	87	本	（ 655 ）	頁

●原稿受付より掲載までの期間（単位：日）2021年

【オンライン】

受付～受理	最短 20	最長 288	平均 121.4
受理～掲載	最短 44	最長 154	平均 89.5
受付～掲載	最短 102	最長 383	平均 211.6

●投稿者所属内訳（第24巻1, 3～6号）受付 掲載

医師	76	名	57	名
薬剤師	6	名	2	名
看護師	5	名	11	名
救急救命士・消防職員	16	名	14	名
その他	5	名	3	名
〔受付〕その他5内訳（診療放射線技師2, 教員2）				
〔掲載〕その他3内訳（ソーシャルワーカー1, 教員1, 診療放射線技師1）				

●令和3年受付投稿論文の投稿別内訳および査読状況

（令和4年4月30日現在）

投稿数	108	本
採用	77	本
不採用	14	本
査読 or リライト中	13	本
取り下げ	4	本

●第24回臨床救急医学会総会・学術集会 座長推薦

	演題数	推薦数	執筆承諾
■シンポジウム	63	15	4
■パネルディスカッション	66	19	9
■教育講演他	9	0	0
■一般演題	271	94	49
➡ 実際の投稿：合計 6			

（令和4年4月30日現在）

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

- 学会雑誌の編集・発行：第25巻1号, 2号（抄録号）, 3号, 4号, 5号, 6号
（電子媒体 J-STAGE での掲載, 抄録号は冊子体で発行）
- 編集委員会の開催：第39回：6月～7月開催予定
- オンライン投稿・査読改修：適宜オンライン投稿・査読システムを整備し、より円滑な運営を進める

以上

【 総務委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 石原 諭

【担当理事】 藤見 聡 （小委員会・WGは除く）

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

今年度参集形式の委員会は開催していない。

2. 報告内容

報告1. 救急医療における標準化情報項目の選定の協力依頼について

厚生労働科学研究「救急医療等における基盤整備のための情報項目等の標準化に資する研究」において救急および災害医療における共有のために必要な情報の追加項目に関して、東北大学久志本教授から学会に依頼があり、令和2年度理事会での承認を経て当委員会が回答することとなった。そこで令和4年1月10日から2月10日までメールにて意見を聴取した結果、以下の項目の提案があり、久志本教授ならびに溝端代表理事に提出した。

- 1) 要介護度、日常生活や歩行の状態、利用サービス、
- 2) 家庭環境、家族の健康状況
- 3) 健康保険証に関わる情報
- 4) 梅毒 STS、TP は除外可
- 5) 血中フィブリノゲン、尿潜血

報告2. 学術総会参加者アンケートについて

第24回総会参加者の職種や開催形式への意見を求めるアンケートを作成し、前委員長・担当理事を交え学会事務局・学術総会事務局と内容・方法について検討した結果、回答率を高める目的で学会参加登録時にweb入力することを登録の必須条件として実施することとした。

→会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

- 1) 第25回総会参加者アンケートを集計解析する。
- 2) これまで隔年で実施してきた、学会のあり方・将来像を考えるための評議員アンケートを実施する。
→評議員各位のご協力をお願いいたします。

【 高齢者救急に関する小委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】伊藤重彦

【活動内容】（平成3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

- ・令和3年度小委員会開催（令和3年7月7日）
- ・委員から提案された課題、活動目標について協議（参考資料）

2. 報告内容

- ・第25回臨床救急医学会総会のシンポジウムにおいて、小委員会委員4名が指定演者として発表予定
- ・全国消防長会のご協力を得て、全国消防本部に対して「コロナ禍における高齢者救急搬送に関するアンケート調査」を実施した（令和4年3月）。

調査結果は調査担当の福島委員が第25回総会のシンポジウムで発表予定

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

1) 小委員会の開催について

第25回臨床救急医学会期中にハイブリット委員会の開催（5月26日予定）

2) 第25回総会シンポジウムにおいて小委員会の課題発表

令和4年5月27日シンポジウム「地域包括ケアシステムにおける高齢者救急の課題と展望 part1」において、小委員会委員4名が指定演者として、高齢者救急が抱える課題等について発表・討論

3) 令和4年度に取り組む活動

1) 検討課題について

（1）高齢者救急における消防救急車以外の搬送手段の確保
傷病程度が軽い、受診手段がない高齢急病者の在宅、施設からのアクセス確保のため、消防救急車の以外の患者等搬送車（病院救急車、民間救急車）の活用について検討、提案を行う。

（2）在宅救急・高齢者救急に関わる知識や経験を得るための看護師向け研修機会の提供
在宅救急・高齢者救急に関わる知識や経験は現場で実践しないと得られないものが多い。救急診療と地域を繋げる看護師の育成に向けた教育活動の検討を始めている救急看護学会 在宅救急看護委員会と連携して、これらを学習する機会の提供に向けた検討、提案を行う。

2) 調査・研究について

- ・DNAR、ACP に対する施設の取組と患者・家族の意識調査
- ・高齢者施設における、入所者 CPA 時対応の調査
- ・高齢者救急搬送における搬送困難事案になる要因の分析調査

【 災害支援としての院外画像検査活動体制についての検討小委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 林 宗博

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

（開催日） （議事内容）

令和3年5月27日 「第1回 Web 会議」

：当小委員会の活動方針として、支援体制を有する「日本赤十字社」「日本診療放射線技師会」をもとに「日本救急撮影技師認定機構」とも協働して『院外画像検査活動体制』の構築に向けた議論を進めていくことを確認した。また救急医だけでなく、精度の高い画像診断能力の提供のため放射線科医との連携も必要であるとの認識、方向性を確認した。

令和3年8月30日 「第2回 Web 会議」

：委員・増員（事会の認を得て）日本赤十字社医療センター・診療放射線技師 岡 雄介氏を委員に加えた。

活動方針として；

- ①人材育成による体制強化方法の検討
- ②画像診断システムの検討（遠隔診断等）
- ③放射線科医との協働（学会間協議）

令和4年3月3日 第27回日本災害医学会総会学術集会（3月3～5日・広島市）

「パネルディスカッション 1：」

2. 報告内容

・第1回会議；活動方針として、支援体制を有する「日本赤十字社」「日本診療放射線技師会」をもとに「日本救急撮影技師認定機構」とも協働して『院外画像検査活動体制』の構築に向けた議論を進めていくことを確認した。また救急医だけでなく、精度の高い画像診断能力の提供のため放射線科医との連携も必要であるとの認識、方向性を確認した。

「パネルディスカッション 1・診療放射線技師の派遣型災害支援の必要性和課題」

・第2回会議；

委員増員

活動方針の再確認

- ①人材育成による体制強化方法の検討
- ②画像診断システムの検討（遠隔診断等）
- ③放射線科医との協働（学会間協議）

・第27回日本災害医学会総会学術集会（3月3～5日・広島市）

「パネルディスカッション 1：診療放射線技師の派遣型災害支援の必要性和課題」と称して学術集会会長のご厚意で災害医学関係者に向けて当小委員会のありようを委員の口演を通して紹介させていただいた。

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

第2回会議で確認された内容の実現に向け、今年度は検討を進める予定である。

【新型コロナウイルス感染症の入院基準策 定に係る検討小委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 櫻井 淳

【担当理事】 溝端康光 （小委員会・WGは除く）

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容
（開催日） （議事内容）
なし

2. 報告内容

現在、活動を行っておりません。

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

現在、活動の予定はございません。

【メディカルコントロール検討委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 田邊 晴山

【担当理事】 森村 尚登

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日) (議事内容)

令和3年12月22日

- ・ オンライン MC 体制の充実強化と実態調査について
- ・ 救急救命処置の公募への対応について
- ・ 救急救命士による指先穿刺での乳酸値測定について

令和4年1～2月

「オンライン MC 体制の実態調査について」の論文化について

2. 報告内容

- ・ 前年度に当委員会で開催したオンライン MC に関する実態調査について、当学会機関紙に「オンラインメディカルコントロールの実態調査について」(調査報告書)として報告(in press)した。
- ・ 全国メディカルコントロール協議会連絡会(令和4年5月開催)のプログラム案について厚生労働省に提案した。

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

1. 委員会の役割

救急医療におけるメディカルコントロールに関わる調査の実施、提言・ガイドラインの策定、教育、関係団体との協力活動を通じて、救急医学・救急医療の進歩、発展、普及を図る。

2. 計画

- ①地域全体の救急医療体制を評価する指標案の基礎的な検討について
- (②新型コロナウイルスに関する臨時的な対応)

【 新型コロナウイルス対応検討WG 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 田邊 晴山

【担当理事】 森村 尚登

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容
(開催日) (議事内容)

2021年6月 救急救命士によるワクチン接種を目的とした筋肉内注射について

2. 報告内容

救急救命士によるワクチン接種を目的とした筋肉内注射の実施に対して、必要な座学研修、実技研修の実施体制等について、臨床救急医学会として協力できる内容等を検討し厚生労働省に報告した。

救急救命士によるワクチン接種を行う際に必要な座学研修の検討内容は、厚生労働省の事務連絡（「新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種のための筋肉内注射の臨床検査 技師、救急救命士による実施のための研修について（第二報）」（令和3年6月17日））に一部反映された。

また、ワクチン接種の研修の委託先や助言機関として、臨床救急医学会としても協力することになった。（研修の実績はなし）

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

新型コロナ感染症の状況を踏まえて、省庁や医療機関、消防機関、会員等からの要望を踏まえて適時対応する。

【会則検討委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 梶野健太郎

【担当理事】 藤見聡

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 『社員総会・会員総会の開催変更に伴った、定款を変更する』件についてメール審議した。(R4.1.9-1.20)

＜内容＞

学術総会がWeb等で行われることを鑑み、第33条と第39条2項の変更が必要になった。審議の結果をまとめると以下である。

(ア) 定時社員総会は開催地において行う必要はなくなった

(イ) ホームページに理事会の決定に基づき報告事項を掲載することで会員総会の開催に変えることができるようになった

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

会則改訂に関する新たな検討事項がない限り、活動計画は特になし。

【 教育研修委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 横堀 将司

【担当理事】 松田 潔 （小委員会・WGは除く）

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

（開催日）

（議事内容）

なし

2. 報告内容

なし

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

令和4年4月23日に

「病院前循環器救急研修会にかかわる計画について」

「重症患者メディエータ講習会に関わる計画について」

上記2つの議事について、循環器救急疾患の病院前救護検討小委員会 石原 嗣郎委員長、および入院時重症患者対応メディエータ養成小委員会 三宅康史委員長より、各委員にご説明いただく予定となっている。

不定期ではあるが、教育コース開発に関わる議論と計画の承認作業を進めるべく、必要に応じ委員会を開催する。

引き続き各小委員会を統括し、また、各コースの運営を委託している一般社団法人臨床教育開発推進機構（ODPEC）のカウンターパートとして窓口業務を調整する。

【 PEMEC 企画運営小委員会 】

報告日：令和 4 年 5 月 25 日

【委員長】 高松 純平

【活動内容】 (令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日)	(議事内容)
令和 3 年 11 月 1 日	「ODPEC との共同運営と今後のコース開催について」
令和 3 年 12 月 8 日	「コース開催要綱の修正について」

2. 報告内容

- ・ コース企画は令和 3 年 10 月 1 日より本小委員会に、運営は ODPEC に移管された。
- ・ 予定していたコースの多くはコロナ禍の影響で中止あるいは延期を余儀なくされた。そのような中で開催者・各委員の尽力・協力もあり別紙の通りコースを開催することができた。

【活動計画】 (令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日)

- ・ 令和 4 年度 PEMEC コース開催希望を募り、全国で 30 コース開催する予定である。
- ・ 学会総会のポストコングレスコースとして、本小委員会主催の PEMEC コースを令和 4 年 5 月 28 日(土)に大阪で開催する。
- ・ 活動を始めて 5 年が経過した現在、受講者もインストラクターも増加し、全国に広まりつつある。救急救命士の生涯教育の算定項目にも含まれており、コースの参加記録は正確に把握していく必要があると考える。しかしながら、開催コースが全国展開され、受講者が増えてきている現状では、その把握、記録にも限界を迎えている。今後を見据え、開催コース・参加者のデータベース構築を計画・実施していく。
- ・ 上述の通り、全国的に展開していく中で、それぞれの地域の事情を理解した委員会メンバーが必要だと考える。各ブロックに 2 名程度、救急救命士 3 名程度の委員会メンバーの増員(合計 14 名)を目指す。

以上

日本臨床救急医学会 PEMEC検討小委員会
2021年度 PEMECコース開催一覧

		開催日		都道府県	コース名		会場	受講者数
1	2021	6月5日	土	愛知県	第2回	名古屋PEMECコース	名古屋市立東部医療センター	18
2	2021	6月13日	日	三重県	第5回	三重PEMECコース	ゆめぼりすセンター	中止
3	2021	7月3日	土	茨城県	第2回	水戸MC・茨城県北地区MCPEMECコース	茨城県立消防学校	9
4	2021	8月8日	日	愛知県	第2回	一宮PEMECコース	一宮市立市民病院	18
5	2021	8月20日	金	京都府	第7回	JESA主催京都橋大学PEMECコースA・B	京都橋大学	延期
6	2021	9月18日	土	兵庫県	第4回	尼崎PEMECコース	関西労災病院	18
7	2021	9月20日	月	群馬県	第4回	群馬PEMECコース	前橋赤十字病院	中止
8	2021	9月25日	土	愛知県	第3回	名古屋PEMECコース	名古屋掖済会病院	中止
9	2021	11月6日	土	茨城県	第3回	【変更】水戸MC・茨城県北地区MCPEMECコース	【変更】茨城県立消防学校	9
10	2021	11月13日	土	三重県	第6回	三重PEMECコース	伊勢赤十字病院	18
11	2021	12月5日	日	埼玉県	第1回	埼玉PEMECコース	地域医療教育センター	18
12	2022	1月15日	土	愛知県	第5回	豊田PEMECコース	豊田厚生病院	18
13	2022	1月15日	土	埼玉県	第2回	埼玉PEMECコース	地域医療教育センター	中止
14	2022	1月16日	日	愛知県	第6回	豊田PEMECコース	豊田厚生病院	18
15	2022	1月16日	日	埼玉県	第3回	埼玉PEMECコース	地域医療教育センター	中止
16	2022	1月23日	日	和歌山県	第1回	和歌山PEMECコース	和歌山県立医科大学附属病院	中止
17	2022	2月6日	日	茨城県	第4回	水戸MC・茨城県北地区MCPEMECコース	茨城県立消防学校	中止
18	2022	2月23日	水	群馬県	第5回	群馬PEMECコース	前橋赤十字病院	中止
19	2022	2月23日	水	三重県	第5回	三重PEMECコース	ゆめぼりすセンター	中止
20	2022	2月26日	土	京都府	第7回	JESA主催京都橋大学PEMECコースA・B	京都橋大学	7
21	2022	3月12日	土	兵庫県	第5回	尼崎PEMECコース	関西労災病院	19
22	2022	3月26日	土	愛知県	第3回	名古屋PEMECコース	名古屋掖済会病院	16

【救急・集中治療における薬剤師研修コース運営小委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 服部 雄司

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

R3年度の活動はございませんでした。

2. 報告内容

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

救急認定薬剤師認定委員会で専門制度のR4年度設立に向け、活動している。
それに合わせ、認定、専門に応じた教育プログラムの内容の見直し、構築を検討する。

1. 認定に加え、専門の制度も設立されるので、教育プログラムの見直し
2. 講義内容、講師の見直し
3. 研修コースを開催し、講義内容の見直しを実施
4. e-ラーニングでの研修を構築する

【 J-MELS 企画開発小委員会 】

報告日：令和 4 年 5 月 25 日

【委員長】 三宅 康史

【活動内容】（令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

（開催日） （議事内容）

令和 4 年 2 月 20 日 J-CIMELS（日本母体救命システム普及協議会）理事会を web にて日本産婦人科医会母体救命法普及運営委員会と合同で開催。
JSEM からは、委員長および櫻井淳、山下智幸の 3 名が出席

2. 報告内容

開催実績として、2021 年（1 月～12 月）はベーシックコース開催 81 回（受講人数 1023 人）、ベーシックインストラクターコース 6 回（同 45 人）、アドバンスコース 3 回（同 19 人）、硬膜外鎮痛急変コース 7 回（同 101 人）であった。病院前コース（仮称）開催に向けての準備、Online での アドバンスコース開催などについて検討された。またアドバンスガイドブックについては改訂第 2 版の準備がすすめられている。

【活動計画】（令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日）

安全で参加が容易な Web 開催の方法、病院前コース開催に向けての準備と資料作成、アドバンスガイドブック改訂第 2 版の発行などが計画されている。

【 JTAS2017 企画運営小委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 奥寺 敬

【担当理事】 ー

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日) (議事内容)

令和3年4月24日 「JTAS オンラインコース開発について」

2. 報告内容

- ① 令和3年5月29日 JTAS オンライン試行コース開催
- ② 令和3年7月より JTAS オンラインコース開催
(7回開催(うち5回は当会主催)、受講者数計245名)

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

- ・ JTAS オンラインコースを10回開催予定。
- ・ JTAS インストラクター養成コースを2回数開催予定。
- ・ 10月頃に発行予定の『JTAS ガイドブック 2022』の内容を踏まえ、コースの改訂を行う。
これに伴い、当委員会の名称を「JTAS2023 企画運営小委員会」へ変更する。

以上

【 ISLS2018 検討小委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 奥寺 敬

【担当理事】 —

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容
(開催日) (議事内容)
なし

2. 報告内容

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

- ・『ISLS ガイドブック 2018』について、来年に改訂が予定されているため、当委員会の名称を「ISLS2023 検討小委員会」へ変更し、コースおよびガイドブックの改訂内容を検討する。
- ・『PSLS ガイドブック 2015』についても、同時に改訂を行うため、内容の検討を行う。
- ・ISLS コースの運営を一般社団法人臨床教育開発推進機構 (ODPEC) へ委託する準備を行う。

以上

【NAEMT 教材開発・コース運営小委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 富岡 譲二

【担当理事】 —

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日)

令和3年4月30日

(NAEMT とのオンライン会議)

(議事内容)

「委員会挨拶紹介／インストラクター養成コースのオンラインでの開催方法／インストラクター養成コースの開催手順／JSEM が course center として apply すべきか否か／NCO としての役割（具体的な作業）／NAEMT Educational portal の管理について」

令和4年2月8日

(NAEMT とのオンライン会議)

「Course Center の認定について／Training Center について／AMLS コースの開催について」

2. 報告内容

・NAEMT とオンラインでミーティングを開催し、NAEMT のコース開催およびNCOとしての作業について、確認・検討を行った。

・AMLS コースのテキストとして用いる『AMLS 日本語版改訂第3版』について、出版社との印税交渉が難航しているため。

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

- ・AMLS コースを開催し、NAEMT のトレーニングセンターとして評価を受ける。
- ・AMLS コースのテキストとして用いる『AMLS 日本語版改訂第3版』について、出版社との印税交渉が難航しているため、コースでの対応を検討する。
- ・NAEMT のトレーニングセンターとして認定された場合、GEMS コースの開催を進める。

以上

【 循環器救急疾患の病院前救護検討小委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 石原嗣郎

【担当理事】 松田潔 （小委員会・WGは除く）

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

（開催日） （議事内容）

令和3年12月18日 同年8月14日開催のオンライン版PACCコースの振り返り
PACCベーシックコースのコンセプト、アルゴリズム
について

令和4年1月17日 コースコンセプト、アルゴリズム、コースデザインについて
日本循環器学会との合同委員会について

令和4年3月3日 ベーシック版アルゴリズム決定、コースデザイン、テキスト作成、
日本循環器学会との合同委員会について

2. 報告内容

令和4年3月、日本循環器学会から日本臨床救急医学会に対して循環器救急疾患の病院前救護検討小委員会の合同委員会立ち上げに関する要望書を受理し、理事会にて承認された。今後の活動方針については、循環器学会側とも十分な協議の上進める。

コース内容については「循環器疾患5ヶ年計画」の内容に沿って一部改訂し、コース内容の簡略化やターゲットの変更(救急隊に設定)など戦略を練り直した。今後は定期的にコースを開催しつつ、合同委員会のメンバーとともにテキストやコース細則などの作成を行う。

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

年間6回程度の試行コース開催を予定。終了後必要な場合に委員会を開催する。

【入院時重症患者対応メディエーター養成小委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 三宅 康史

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

委員会は、「脳死下、心停止後の臓器・組織提供における効率的な連携体制の構築に資する研究」（令和二年度厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）班長 横田裕行 日本体育大学教授）の班会議の一環として開催された。

（開催日）	（議事内容）
令和3年 7月 20日 の開催について	「新型コロナウイルス感染拡大の中、リモートで行う教育ツールの開発について」
令和4年 1月 11日	「web版養成講習の開催についての準備状況」

2. 報告内容

完全webでの入院時重症患者対応メディエーター養成講習会の開催に向け、3つの講義をビデオ化、3時間のロールプレイで使用する3つのシナリオを紙芝居セリフ付き動画を作成した。

入院時重症患者対応メディエーター養成講習会のHPを作成のうえ、重要かつ最新の情報をアップした。<http://hmcip.umin.jp/index.html>

2月に2回、3月に完全オンラインで2回の養成講習会を開催し、35名の受講生に修了証を配布。

令和4年2月の中医協の答申により、診療報酬が改訂され令和4年4月から入院時重症患者対応メディエーターに対し、重症患者初期支援充実加算として3日間300点が新設された。

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

令和4年度は、6回の開催を予定しており、3つのビデオを事前視聴ののちに、3時間で3つのシナリオのロールプレイ（主治医役、患者家族役、メディエーター役）を1コースとして約3時間、1日に午前、午後開催で各30名、合計60人を6回、1年で合計360人の受講を企画。科研費が来年度で終了となること、令和4年4月からこの職種の配置により診療報酬が認められること、今後さらなる受講生の増加が見込まれることから、安定した講習会開催と現在ほぼボランティアとして参画中の日本メディエーター協会のファシリテーターへの報酬支払いを可能とするために、1万円での受講料聴取を検討中。

【 評議員選出委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 守谷 俊

【担当理事】 守谷 俊 （小委員会・WGは除く）

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容
（開催日） （議事内容）

活動なし

2. 報告内容

特になし

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

特になし
（現評議員の任期は令和7年3月31日まで）

【 広報委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 西池 成章

【担当理事】 富岡 譲二 （小委員会・WGは除く）

【活動内容】（令和2年4月1日～令和3年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

（開催日） （議事内容）

令和3年8月31日 「Newsletter 第12号の企画と次回以降の内容について」

令和4年2月25日 「Newsletter 第13号の企画の確認と委員会活動内容について」

2. 報告内容

令和4年1月にNewsletter12号の発刊を行った。

令和4年5月Newsletter13号の発刊を行った。

ホームページ（HP）、Facebookを用いた広報活動を行った。

HPおよびFacebookへの広報活動

後援申請の承認

【活動計画】（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

広報誌であるNewsletter 第14号（2023年1月予定）及び15号の発刊（2023年5月予定）。

HP、Facebookを通じた広報活動を継続する。

【公益信託丸茂救急医学研究振興基金運営委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 溝端 康光

【担当理事】 溝端 康光

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

「令和3年度給付申請の検討（一次審査）について」（書面開催）

2. 報告内容

新型コロナウイルスの影響により対面での開催が困難であったため、書面開催方式にて本委員会（坂本委員長）を開催した。

標記基金への申請26件（臨床推薦案件3件を含む）について、助成金給付申請採点表および意見書を用いて書面審議した結果、7名に総額300万円の助成金を給付することとした。

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

令和4年度については、令和4年5月27日に臨床救急医学会委員会（溝端委員長）を開催（web併用）し、令和4年度給付申請の検討（一次審査）を行う。

【学校へのBLS教育導入検討委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 立川 法正

【担当理事】 田中 秀治 (小委員会・WGは除く)

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日) (議事内容)

※新型コロナウイルス感染症の影響もあり開催なし

2. 報告内容

本委員会は「学校教育に実技実施を伴う救命教育を導入・普及する事」を目標に活動している。これは、院外心停止の救命率向上のために活動している国際的なネットワークであるGRA (Global Resuscitation Alliance)が提唱している10 stepsの1つ「学校とコミュニティにおけるCPR・AEDトレーニングを義務化」に当てはまり、世界の潮流に沿った活動となっている。

例年、日本AED財団School部会と連携し、本委員会は学術的な役割、School部会は実務的な役割と役割分担することで、より効果的に学校での救命教育導入の更なる促進を目指した活動を行っている。毎年、日本臨床救急医学会共催で開催している日本AED財団School部会フォーラムが、新型コロナウイルス感染症の影響で次年度に延期となる等、委員会活動を縮小せざるを得ない状況であった。

<令和3年度 主な取り組み>

1. 日本AED財団school部会との連携
 - ・ 委員会は学術的な役割、school部会はコンテンツやイベントなど実務的な役割
2. 全国学校安全教育研究会との連携継続
3. 学校教員のサポートとなるような精神的サポート・ケアに関わる取り組み
 - ・ バイスタンダーサポート特別委員会と共同で検討

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

活動15年目を迎える令和3年度(2022年度)は、新型コロナウイルス感染症により活動縮小を余儀なくされた現状を立て直し、引き続き学習指導要領の改定を見据えた「学校での救命教育導入の更なる促進」を目標にする。そのために、

1. G2020に準拠した「心肺蘇生の指導方法、指導内容に関するコンセンサス」の改訂
2. 教員養成課程へのBLS教育の導入促進
3. 学校内でBLS教育を実施するための教員への支援
4. 学校安全・危機管理マニュアルへのBLS導入促進

を具体的目標として、日本AED財団school部会と緊密に連携しながら教育現場と医療側の連携方法や、教員養成課程や教員に対する授業方法の伝達を検討していく。

【自殺企図者のケアに関する検討委員会】

【自殺企図者のレジストリー構築 WG】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 三宅 康史

【担当理事】 松田 潔

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日) (議事内容)

webを用いた自殺未遂者ケア研修(令和4年1月8日 厚労省指定法人主催、JSEM及び日本精神科救急学会共催)、webを用いたPEECコース(東京都主催3回、その他各自治体、大学法人他主催〇回)に合わせて、各WG、小委員会がコース前後で開催され、重要事項に関して委員間で意見調整がなされた。

2. 報告内容

「COVID-19流行期におけるPEECコース再開のための小委員会」(委員長：日野 耕介 沼津中央病院)、
「病院前救護における自殺企図者のケア方法を普及させるためのWG」(委員長：橋本 聡 国立病院機構熊本医療センター)については別途報告。

活動2年目となった「自殺企図者のレジストリー構築WG」(委員長：山下智幸 日赤医療センター)については、昨年度の登録ソフト構築に続き、今年度は主幹校となる帝京大学医学部倫理審査を経て、全国9か所の救命救急センターのある医療機関での試験的症例登録(約40例)をおこない、入力上の不具合、データの安全な管理についての確認のうえ、調整を行った。さらに独自のMCDRSを用いた入力システムあるいは許可が出れば日本救急医学会の保有するMCDRSを用いた入力システムによる本格的入力システムへの移行準備を進めている。

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

「COVID-19流行期におけるPEECコース再開のための小委員会」、「病院前救護における自殺企図者のケア方法を普及させるためのWG」については別途提示。

「自殺企図者のレジストリー構築WG」では全国290か所余りの救命救急センター責任者に、帝京大学を主幹校とする自殺企図者の症例登録研究における一括審査の可否、責任者の医療倫理教育講習受講の有無を確認したうえ、一括倫理審査を受審、承諾を得たうえで、本格的な全国救命救急センターにおける自殺企図症例の登録を開始する予定である。

【 病院前救護における自殺企図者のケア方法を普及させるための WG 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 橋本聡

【担当理事】 松田 潔 （小委員会・WGは除く）

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
令和3年4月24日	「PPST オンライントライアル（TALK/ICC/VD）」ならびに振り返り
令和3年5月24日	「トライアル後の修正点確認。PPST の受講資格確認ほか」 ※PPST 受講のみは PEEC 受講を要件としないが、PPST インストラクター・アシスタントを目指すものは PEEC 受講が必要。
令和3年6月17日	「総括ロールプレイについて」
令和3年7月29日	「総括ロールプレイについて（続き）」
令和3年8月19日	「総括ロールプレイトライアルに向けて内容精査」
令和3年9月18日	「総括ロールプレイ ケース1のトライアル」ならびに振り返り
令和3年10月26日	「総括ロールプレイ ケース2のトライアル」ならびに振り返り
令和3年11月29日	「オンライントライアルフルコースに向けて」
令和4年1月16日	「総括ロールプレイ ケース3のトライアル」ならびに振り返り
令和4年2月15日	「オンライントライアルフルコースに向けて（続き）」
令和4年3月12日	「オンライントライアルフルコースの開催」ならびに振り返り
令和4年3月20日	第1回横浜 PPST オンライントライアルコース開催

2. 報告内容

令和2年度に引き続き PPST コースのオンライン化準備を進め、令和4年3月12日、三宅康史先生（自殺企図者のケアに関する検討委員長）監修のもとでフルセットのコース試技を行った。PEEC コースの必須スキルである「TALK の原則」スキル、自殺の切迫度・危険因子評価スキル、言語的静穏化スキルを、グループワーク、ロールプレイ試技でもって学ぶ対面コースのエッセンスをオンラインコースに移行できたことを確認した。その後、3月20日に第1回横浜 PPST オンライントライアルコースを成功裡に開催出来た。今後は正式なコンテンツとして全国展開する。特に横浜は PEEC コース受講者も多く、関東圏の旗艦コースとなることが期待できる。

オンラインコースの準備を進めると同時にインストラクターの養成も行い、新規に5名のものがインストラクターとなった（全員救急救命士）。

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

PPST の運営管理母体をはっきりさせ、コース運営に関するノウハウを広げるとともに、新規開催を考えるものにとってコース準備が容易となるようにする。すでにノウハウのある地域（九州・関東）ではオンライン・オンサイトいずれかでコース開催を行う。

【COVID-19 流行期における PEEC コース再開のための小委員会】

報告日：令和 4 年 5 月 25 日

【委員長】 日野 耕介

【担当理事】 (小委員会・WGは除く)

【活動内容】 (令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日)	(議事内容)
令和 3 年 8 月 11 日	PEEC (WEB 版) の開催状況について WEB 版コース拡大に向けた ODPEC のサポートについて その他 (認定スタッフの昇格方法について など)

※上記に加え、委員会メンバーで構成されるチームコミュニケーションツール、メール会議によりオンライン版コンテンツのブラッシュアップについて、随時検討を行なった。

2. 報告内容

前年度より運用を開始した PEEC コースの WEB 版について、東京都 (計 3 回) 横浜市 (計 3 回)、熊本県 (計 3 回)、秋田県 (計 2 回)、佐賀県 (計 2 回)、沖縄県 (計 2 回)、茨城県、日本精神科救急学会公開コースで開催し、開催実績を増やすことができたほか、それらのコースで得られた実績をもとに、より適切な開催方法について検討し、WEB 版コースのブラッシュアップを行なった。なお、年度の後半には、Zoom のブレイクアウトルームを利用した複数ブース開催の方法について検討し、東京 (最大 4 ブース開催)、横浜 (2 ブース開催) の各コースで開催した。

なお、前年度より、PEEC コースの運営管理に関わる業務については、臨床教育開発推進機構 (ODPEC) に委託する形となったため、今後のコース運用に関する課題についても適宜 ODPEC と協議の場を持ち、より適切なコース運営が可能となるよう検討を行なった。

また、第 49 回日本救急医学会総会・学術集会 救急科領域講習 にて、PEEC コースに関する講演を行い、さらに多くの救急医にコースが認知されるよう努めた (自殺企図者のケアに関する検討委員会委員長：三宅康史先生)。

【活動計画】 (令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日)

- ① WEB 版 PEEC コースの更なる普及
令和 3 年度にコースの開催を重ねた結果、WEB 版 PEEC コースは複数ブースでの安定的なコース運営が可能になりつつある。さらに多くの地域においてコースが開催できるよう、各地の開催主体の支援を行なっていく。
- ② 対面コース再開に関する検討
WEB 版コースのコンテンツについて確立はしたものの、いまだ自治体からは対面形式でのコース開催の要望も多数いただいている。COVID-19 感染症の収束の兆しがみられるようになった場合は、対面コースの再開のあり方に関する検討や、WEB 版コースと対面コースの棲み分けについても検討をしていく。

【 国際委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 西内辰也

【担当理事】 田中秀治（小委員会・WGは除く）

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

委員会開催なし

2. 報告内容

1. 委員交代について

委員長および6名の委員が留任し、新たに3名の委員を選出

2. EMS Asia 2021 の開催延期について

2021年9月9日、10日に開催を目指していたEMS Asia 2021は、COVID-19の世界的流行のため、2022年5月17～19日に延期となるも、COVID-19の流行が未だ収まらず再度延期となり、2023年度に開催される第26回日本臨床救急医学会総会・学術集会あるいは第51回日本救急医学会学術総会での合同開催を目指す。

3. アジア諸国との連携

Asian EMS societyとの連携を図りアジアでのプレホスピタルの学術的活動をアジア各国と行う。
日本臨床救急医学会が窓口となりアジア各国で行われている学術団体との連携を進める。

4. Global Resuscitation Alliance との連携について

Global Resuscitation Alliance (GRA)はシアトル発祥の蘇生アカデミーの体系的な教育プログラムを全世界で普及することを目的とした団体である。第23回日本臨床救急医学会総会・学術集会でGRA日本支部設立について同支部委員長の坂本哲也先生が紹介した。坂本哲也委員長のもと石見・畑中評議員・田中担当理事が副委員長、西内委員長がGRA日本支部の委員として参加し、国際委員会は「院外心停止例の救命率向上を実現するための病院前救急医療体制改善の10のプログラム」普及の一翼を担う方針となった。

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

延期となっているEMS Asia 2021のsteering committeeとしての役割を担う委員会として、運営・企画会議をオンラインで開催する。

【 救 急 認 定 薬 剤 師 認 定 委 員 会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 添田 博

【担当理事】 鈴木 昭夫 (小委員会・WGは除く)

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日)	(議事内容)
令和3年5月27日	救急専門薬剤師制度の新設について (web 開催)
令和3年6月～7月	救急認定薬剤師認定審査および認定更新審査について (審査委員会、メール開催)
令和3年12月14日	救急専門薬剤師制度の新設について (web 開催)
令和3年12月14日	救急認定薬剤師試験結果について (試験委員会、web 開催)
令和4年3月2日	救急専門薬剤師制度の新設について (web 開催)

2. 報告内容

- ・第10回救急認定薬剤師認定審査：新型コロナ禍の社会情勢を鑑みて認定試験は中止し、申請書類の審査をもって暫定認定審査とした。
暫定認定者に対する暫定認定試験は次年度開催予定。
申請者：71名、新規暫定認定者：62名
- ・救急認定薬剤師認定更新について (5年ごとに更新)
第1回認定更新：更新者 17名 (対象者 23名 うち保留 1名)
第4回認定更新：更新者 1名 (前回保留者)
第5回認定更新：更新者 17名 (対象者 23名 うち保留 4名)
第6回認定更新：更新者 19名 (対象者 30名 うち保留 10名)
- ・救急認定薬剤師総数 279名 (令和3年10月1日現在 暫定認定を含む)
- ・2021年度救急認定薬剤師講習会
2021年9月4日 (土) 13:30～16:30 : WEB 配信 (広島県薬剤師会館から配信)
テーマ：「体液管理、栄養管理、予防的薬物療法」
講師：岩崎 泰昌先生、玉造 竜郎先生
参加人数：248名
- ・救急・集中治療領域での薬剤師に関するアンケート調査の実施：
① 臨床救急医学会の薬剤師会員向け (web での実施)
② 薬剤部門長向け、救命救急センター長向け (それぞれ郵送による実施)

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

- ・第11回認定審査：認定申請期間 令和4年3月1日～5月31日
- ・第2回、7回認定更新：更新申請期間 令和4年3月1日～6月30日
- ・第10回・第11回救急認定薬剤師認定審査試験 令和4年8月28日
- ・認定薬剤師認定委員会が開催する講習会 令和4年9月10日 (web 開催)
- ・救急専門薬剤師制度の新設に関する検討
- ・救急・集中治療領域での薬剤師に関するアンケート調査結果を調査・報告として学会誌への投稿

【緊急度判定体系のあり方に関する検討委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 六車 崇

【担当理事】 森村尚登

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

活動なし

2. 報告内容

活動なし

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

- ・ COVID-19 流行期における緊急度判定についての改訂と検証方略の検討

【 研究倫理委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】山勢 博彰

【担当理事】藤見 聡

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

活動無し

2. 報告内容

活動無し

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

研究倫理に関する新たな検討事項がない限り、活動計画は特になし。

【 小児救急委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 六車 崇

【担当理事】 守谷 俊

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

（開催日）	（議事内容）
他メール審議多数	- 病院前救護における救急救命士のミダゾラム口腔用液（ブコラム）投与の是非について - 病院前救護における小児用資機材の標準化について - WG 活動状況の共有および演題発表・論文執筆について

2. 報告内容

- 第24回日本臨床救急医学会・学術集会 パネルディスカッション「小児・周産期傷病者への救急診療のあり方」を題材に7名の演者とともに小児・周産期の病院前救護における現況と課題を議論した。
- 小児救急連絡協議会を通じて、小児救急に係る学会活動について他学会との情報交換を行なった。
- 小児救急医学会から提案された「小児てんかん重積状態に対する救急救命士のミダゾラム口腔用液使用についての要望」についての理事会審議にむけて、委員会で意見をまとめ報告した。
- PPMEC コース・オンライン版の普及に向け、学術誌や学会発表で情報提供をWGと連携して行った。
- 小児病院前救護トレーニング(PPMEC)について、オンライン教材の作成およびオンラインコース開催の方向性の確認をWGと連携して行なった。
- 病院前救護に必要な小児用携行資機材について、現状調査の実施および推奨版セットの作成をWGと連携して行なった。

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

- 第25回日本臨床救急医学会・学術集会において、当委員会企画の①パネルディスカッション、②救急救命士のミダゾラム口腔用液の投与に関するPros/Consセッション、③小児事故予防に関する教育講演、を実施し、小児病院前救護を含めた小児救急診療の質の向上につなげる。
- WG 成果物「PPMEC コース・オンライン版」および「病院前救護における小児用資機材の標準化セット」について他学会などへ意見聴取できる準備を整え、普及にむけた調整を実施する。
- 病院前救護における小児診療の標準化に関する書籍出版またはwebでの情報公開を通じて、小児救急診療に関わる救急隊・医療従事者の知識・技術の向上につなげる。

【小児病院前救護トレーニングコース開発 WG】

報告日：令和4年5月25日

【小児病院前救護トレーニングコース開発 WG】

委員長 問田 千晶

【担当理事】 守谷 俊

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

（開催日） （議事内容）

Web 会議（複数回）「小児病院前救護トレーニングコース（PPMEC）・オンライン開催について」

2. 報告内容

- 小児病院前救護トレーニングコース（PPMEC）・オンラインコースの開催
合計 248 名に受講していただき概ね好評を得た。

第 13 回 第 24 回日本臨床救急医学会学術集会・併設オンラインコース

開催日時 2021 年 6 月 12 日

受講生 184 名

インストラクター 医師 5 名

第 14 回 岡山救急医療研究会・併設オンラインコース

開催日時 2021 年 11 月 27 日

受講生 64 名

インストラクター 医師 4 名

- 学術誌や学会発表での情報提供を通じた普及活動の実施
 - ☆ 「オンライン版 PPMEC コースの開発と展望」について「調査・報告」として報告
日臨救急医学会誌 2022;25:57-61（資料 1）
 - ☆ 第 24 回日本臨床救急医学会学術集会で PPMEC コースに関連した演題発表
 - ① PD 9 小児・周産期傷病者への救急診療のあり方
 - ② PD 15 Off the Job Training がコロナ禍で生き残る道

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

- 小児病院前救護トレーニングコース（PPMEC）
 - 第 25 回日本臨床救急医学会学術集会・併設オンラインコースの開催
 - 現地およびオンライン開催を通じた教育プロダクトの完成
 - 持続可能なコース開催方式の検討
一般社団法人「臨床教育開発推進機構（ODPEC）」への移譲に向けた課題の検討

調査・報告

オンライン型小児病院前救護
トレーニングコースの開発と展望

岡田 千晶^{1,2} 六車 崇^{1,2} 賀来 典之^{1,2} 塚原 結平^{1,2}
安達 晋吾^{1,2} 光銭 大裕^{1,2} 新田 雅彦^{1,2} 野坂 宜之^{1,2}
林 卓郎^{1,2} 松浦 治人^{1,2} 守谷 俊¹

【要旨】 目的：オンライン型 PPMEC コース用の教材を作成し、オンライン型 PPMEC コースの理解・満足度と課題について検証した。方法：オンライン型 PPMEC コース受講前後のアンケート結果を用いて、新規教材およびオンライン型 PPMEC コースの理解度と満足度を量的に分析した。完全満足評価群と他評価群の2群比較および多重ロジスティック回帰分析を実施し、オンライン型 PPMEC コースの満足度に影響する因子を抽出した。結果：オンライン型 PPMEC コースは少数のインストラクターで多数の受講生に対して実施でき、一定の理解度と満足度を得ていた。完全満足群では教育内容を「十分に理解できている」と回答した受講生の割合が高かった。また、コースの満足度には「小児の評価」および「小児 basic airway」の理解度がコース評価に有意に影響していた。結論：オンライン型 PPMEC コースは受講生の満足度と理解度を得ることにつながっていたが、理解しやすい教育教材への改良などによりコースの質を向上させることが課題である。

索引用語：小児、病院前救護、救急救命士、off the job training、教育

はじめに

わが国における病院前救護の主たる担い手は地域の消防本部に所属する救急救員である。病院前救護活動では、年齢に関係なく傷病者の多様な病態を迅速に判断し効果的な救急処置を実施することが救急救員には求められる¹⁾。

小児傷病者に適切な病院前救護を実施するために

Endeavors and prospects of the on-line Pediatric Prehospital Medical Evaluation and Care
Chiaki TOIDA^{1,2}, Takashi MUGURUMA^{1,2,3}, Noriyuki KAKU^{1,2}, Kohji TSUKAHARA^{1,2,3}, Shingo ADACHI^{1,2,3}, Daiyu KOSEN^{1,2,3}, Masahiko NITTA^{1,2,3}, Nobuyuki NOSAKA^{1,2,3}, Takuro HAYASHI^{1,2,3}, Haruhito MATSURA^{1,2}, Takashi MORIYA¹

¹Japanese Society for Emergency Medicine, Committee of pediatric emergency medicine, ²Pediatric Prehospital Medical Evaluation and Care

³日本臨床救急医学会小児救急委員会, ²小児病院前救護トレーニングコース・インストラクター

(原稿受付日: 2021年10月18日 原稿受理日: 2022年1月13日)

日臨救急医会誌 (JJSEM) 2022; 25: 57-61

57

オンライン型小児病院前救護トレーニング

時刻	時間 (分)	プログラム
9:00 ~ 9:10	(10)	オリエンテーション
9:10 ~ 9:45	(35)	①小児の評価 講義&実技講習
9:45 ~ 9:50	(5)	質疑応答
9:50 ~ 9:55	(5)	休憩
9:55 ~ 10:15	(20)	②小児の basic airway 講義&実技講習
10:15 ~ 10:20	(5)	質疑応答
10:20 ~ 10:25	(5)	休憩
10:25 ~ 10:45	(20)	③小児の advanced airway 講義&実技講習
10:45 ~ 10:50	(5)	質疑応答
10:50 ~ 10:55	(5)	休憩
10:55 ~ 11:40	(45)	④アナフィラキシー 講義&実技講習
11:40 ~ 11:45	(5)	質疑応答
11:45 ~ 12:00	(15)	質疑応答 & クロージング

から量的分析を実施した。対象者は、第10回～第13回 PPMEC コースの受講生とした。調査項目は、個人属性 (職種、救急業務従事年数)、自己効力感 (小児の評価、エアウェイの使用、バッグ・バルブ・マスク換気の実施、声门上デバイスの使用、エビベン®の使用)、4つの教育内容およびコース全体に対する満足度と理解度、同僚への PPMEC 受講のすすめ度、受講費用の想定額、改善点 (自由記載) とした。自己効力感は6件法、満足度・理解度・おすすめ度は4件法の尺度を用いて回答を得た。

オンライン型 PPMEC コースに対する満足度から、完全満足評価群 (満足と回答した群) と他評価群 (やや満足、やや不満、または不満と回答した群) に分類し、教育内容ごとに「十分に理解できた」と回答した受講生の割合について Fisher の正確確率検定を用いて2群間で比較した。「満足した」との評価の有無を従属変数、4つの学習項目の理解度を説明変数にして多重ロジスティック回帰分析を行い、満足度に影響する因子を抽出した。統計解析には STATA/SE (バージョン16.1) を用いた。いずれの解析も $p < 0.05$ を有意差ありと判断した。

結 果

第10回～第13回のオンライン型 PPMEC コース受講者308名のうち、257名から有効回答を得た (有効回答率83%)。職種の内訳は、救急救命士226名、救急救員70名、医師3名、看護師1名、薬剤師1名、放射線技師1名、その他6名であった。救急業務従事

は、成人とは異なる小児特有の生理学的特性および解剖学的特性をふまえて、小児病院前救護にかかわる知識や技能を習得する必要がある²⁾。しかしながら、わが国では18歳未満の小児傷病者の救急搬送は全体の8.3%と少なく³⁾、救急救員が小児傷病者にかかわる知識や技能を on the job training (以下、OJT) のみで維持することは容易ではない⁴⁾。これを補完するために off the job training (以下、Off JT) を充実させることの重要性は認識されているが、小児病院前救護における教育体制の整備は十分ではないと報告される^{5,6)}。

日本臨床救急医学会小児救急委員会 (以下、委員会) では、2015年に小児傷病者に対する病院前救護の標準化された教育プログラムとして、小児病院前救護トレーニングコース (Pediatric Prehospital Medical Evaluation and Care; 以下、PPMEC)⁷⁾ を策定し、2019年末までに計9回の PPMEC コースを対面型で開催してきた (表1)。委員会では、PPMEC コースのさらなる普及を目指してオンライン型 PPMEC コースの教材を作成し、2021年6月までに計4回のオンライン型 PPMEC コースを開催した。

表1 小児病院前救護トレーニングコースの開発状況と参加者内訳

コース名	開催日	開催地	開催形式	受講生数	インストラクター数
第1回	2015/1/26	福岡県	対面型	9	4 (医師4名)
第2回	2015/1/30	神奈川県	対面型	8	6 (医師5名、救命士1名)
第3回	2015/6/4	富山県	(日本臨床救急医学会学術集会・併設コース)	12	7 (医師6名、救命士1名)
第4回	2016/5/13	福島県	(日本臨床救急医学会学術集会・併設コース)	12	7 (医師6名、救命士1名)
第5回	2016/12/12	大阪府	対面型	12	5 (医師3名、救命士2名)
第6回	2017/5/27	東京都	(日本臨床救急医学会学術集会・併設コース)	16	7 (医師6名、救命士1名)
第7回	2017/12/20	大阪府	対面型	12	9 (医師7名、救命士2名)
第8回	2019/5/30	和歌山県	(日本臨床救急医学会学術集会・併設コース)	12	6 (医師5名、救命士1名)
第9回	2019/11/30	岡山県	対面型	12	6 (医師5名、救命士1名)
第10回	2020/8/27	—	(日本臨床救急医学会学術集会・併設コース)	57	6 (医師5名、救命士1名)
第11回	2021/3/10	大阪府	オンライン型	33	5 (医師6名、救命士1名)
第12回	2021/3/11	大阪府	オンライン型	34	2 (医師2名)
第13回	2021/6/12	—	(日本臨床救急医学会学術集会・併設コース)	184	5 (医師5名)

目 的

本研究は、PPMEC コースの質を向上させ普及を図るために、コロナ禍での取組みとして実施した「オンライン型 PPMEC コース」の理解・満足度と課題を明らかにすることを目的とした。

方 法

1. オンライン型 PPMEC コースの概要

1) 教育内容と教育コンテンツ

オンライン型 PPMEC コースでは、小児傷病者の急性期の病態を迅速に判断して効果的な救急処置を実施するために必要な4つの項目について配布資料と動画教育を作成した。配布資料は PPMEC ホームページ⁸⁾から事前に各自がダウンロードできるようにした。動画教材は、講義動画と実技講習動画の2部構成とした。4つの項目の学習目標を以下に提示する。

①小児の評価

Pediatric assessment triangleに沿った小児の初期評価法、小児の ABCDE アプローチ法、および小児の緊要度判定についての知識・技能を習得する。

②小児の basic airway

小児の用手的気道確保、バッグ・バルブ・マスク換気、口咽頭エアウェイの挿入、および異物除去についての知識・技能を習得する。

③小児の advanced airway

小児における声门上デバイス・気管挿管の適応と使用、マール留子を用いた異物除去についての知識・技能を習得する。

④アナフィラキシー

小児におけるアナフィラキシーの認識とエビベン®保持者への対応についての知識・技能を習得する。

2) コースプログラム

オンライン型 PPMEC コースのプログラムを表2に示す。ウェビナーシステムを用いたオンラインによる開催形式とし、オリエンテーション、項目ごとの動画教材の放映とチャット機能を活用した質疑応答、全体をとおした質疑応答とクロージングを実施し、3時間で開催するコースプログラムとした。

3) 受講生と指導者

受講対象は救急救員としたが、医師、看護師、薬剤師など他職種の参加も認めた。指導者は委員会の委員および PPMEC コースを修了しているインストラクターとした (表1)。

2. 検討内容

2020年8月～2021年6月までに開催したオンライン型 PPMEC コースにおいて、コース受講前後に実施した記名の自己記入式ウェブアンケート調査の結果

58

日臨救急医会誌 (JJSEM) 2022; 25: 57-61

岡田 千晶, 他

表3 「十分に理解できた」と回答した受講生の割合の2群比較

調査項目	完全満足評価群 (n=169)	他評価群 (n=88)	p 値
小児の評価に関して「十分に理解できた」と回答した割合 (%)			
講義資料	53.9	36.1	<0.05
講義の内容	83.4	38.6	<0.05
実技動画講習の内容	58.6	17.1	<0.05
セッション全体	85.2	27.3	<0.05
小児の basic airway に関して「十分に理解できた」と回答した割合 (%)			
講義資料	66.0	26.7	<0.05
講義の内容	85.8	43.2	<0.05
実技動画講習の内容	68.6	20.5	<0.05
セッション全体	88.8	38.6	<0.05
小児の advanced airway に関して「十分に理解できた」と回答した割合 (%)			
講義資料	68.1	37.5	<0.05
講義の内容	81.7	42.1	<0.05
実技動画講習の内容	65.7	21.6	<0.05
セッション全体	82.8	34.1	<0.05
小児のアナフィラキシーに関して「十分に理解できた」と回答した割合 (%)			
講義資料	83.4	54.6	<0.05
講義の内容	91.1	56.8	<0.05
実技動画講習の内容	78.0	31.1	<0.05
セッション全体	89.9	53.4	<0.05

Mann-Whitney, Fisher の正確検定を用いて、 $p < 0.05$ を有意差ありと定義した

表4 受講後アンケート調査で「コースに完全満足した」との評価に影響した因子

調査項目	オッズ比	95%信頼区間	p 値
学習項目ごとの理解度			
小児の評価	5.6	(2.58-12.30)	<0.05
小児の basic airway	2.7	(1.12-6.31)	<0.05
小児の advanced airway	1.9	(0.82-4.53)	0.14
小児のアナフィラキシー	1.7	(0.67-4.19)	0.27

多重ロジスティック回帰分析を用いて、 $p < 0.05$ を有意差ありと定義した

満足度に有意に影響していた (表4)。

考 察

オンライン型 PPMEC コースは、少数のインストラクターで多数の受講生に対して実施することができ、一定の理解度と満足度を得ていた。オンライン型 PPMEC コースの評価には「小児の評価」および「小児の basic airway」の理解度が影響しており、この2項目のさらなる質の向上が今後の課題であることが示唆された。

教育の質を担保するために、Basic Life Support, Advanced Cardiac Life support, および Japan Advanced Trauma Evaluation and Care の講習会では、1名のインストラクターに対し1～6名の受講生の比率で指導するとことが求められている⁹⁾。しかしながら、国内で

救急救命士の資格をもつ救急救員は30,255名 (令和2年度)¹⁰⁾ おり、より多くの救急救命士に対して PPMEC コースを普及させるためには、インストラクターに対する受講生の比率を高める必要があった。Off JT において動画教材など活用したマストレーニングの教育効果を応用することで、従来型の指導法と同等の教育効果が得られると報告されている¹¹⁾。オンライン型 PPMEC コースにおいても、マストレーニングの手法を応用することでインストラクターに対する受講生の比率を対面型1対1～3からオンライン型1対7～37へと高めた (表1) とともに、一定の理解度を得ることができたと考えた。また、Off JT において教育の質を維持し発展させるためには、指導者の質を確保することが不可欠であると報告されている¹²⁾。オンライン型 PPMEC コースでは、コース内で使用するすべての教育教材を

日臨救急医会誌 (JJSEM) 2022; 25: 57-61

59

日臨救急医会誌 (JJSEM) 2022; 25: 57-61

動画教材へ変更したことで、指導者の経験や知識に依拠せず教育の質を担保できる体制を整備した。これにより、オンライン型の開催形式では、実際に実技を行うことができないにもかかわらず、受講生の80%がオンライン型の開催形式を好意的に受け止め、高い満足度を得る結果につながったと考える。

アンケートの分析結果から、オンライン型PPMECコースの評価には、「小児の評価」および「小児のbasic airway」の理解度が影響を与えていた。「小児の評価」と「小児のbasic airway」で教育する内容は、PPMECコースの4つの学習項目のなかでも、救急隊員が現場活動で遭遇する頻度が高いことが想定される³⁾。そのため、受講生からあげられた改善点としても、この2項目で使用する教育教材に関するものが最多であった。また、「実技動画講習の内容」に関して「十分に理解できた」と回答した受講生の割合は「講義内容」より4項目とも低く、アンケートでも実技動画教材に評価や処置を多角的に撮影した動画やシミュレーション動画の追加を求める意見が多く寄せられた。さらに、質疑応答に関しても、より長い時間をとってほしいとの要望も寄せられた。今後、オンライン型PPMECコースの質の改善に向けては、動画教材を含む教育教材・コース構成の改訂を進める必要性が示唆された。

病院前救護において小児傷病者対応を経験する頻度が低い⁴⁾、救急隊員が小児傷病者対応にかかわる知識・技能を維持・向上するためには、On JTを用いた教育を繰り返し受講することが有効であると報告されている⁵⁾。そのため、PPMECコースを普及させることで、わが国における小児病院前救護の質の向上につながることが期待される。PPMECコースの普及に向けては、継続可能なコース運営を図る必要がある。インストラクターの養成や運営資金の安定的な確保を目指すとともに、既存の成人を主たる対象としたコース(Prehospital Emergency Medical Evaluation and Careコース)との連携なども模索し、PPMECコースの普及に努めたい。

研究の限界

本検討は、受講生の主観的評価に基づいて検討しており、実際の知識や技能を客観的に評価できていない。PPMECコースの教育効果を評価するためには、オンライン型に対面型の講習を組み合わせたハイブリッド型のコース開催についても検討が必要である。

また、受講生の職種、経験年数、知識量などが異なる集団において背景因子を調整できていないため、選択バイアスが存在している。今後、受講生の背景因子を調整したうえでさらなる検討を加える必要がある。

結 論

オンライン型PPMECコースの教材を作成し、オンライン型PPMECコースを開催した。オンライン型PPMECコースは、少数のインストラクターで多数の受講生に対して実施できた。受講生の理解を得ることがコース満足度にも影響を与えており、理解しやすい教育教材への改良を図りコースの質を向上させることが課題である。また、継続可能なコース運営とすることでさらなる教育の普及を図り、小児病院前救護の質の向上につなげたい。

利益相反

本稿のすべての著者には規定されたCOIはない。

文 献

- 1) Tanigawa K, Tanaka K: Emergency medical service systems in Japan: Past, present, and future. Resuscitation 2006; 69: 365-70.
- 2) 根本有希, 賀来典之, 六車崇, 他: 小児病院前救護に関する教育の現状. 日臨救急医学会誌 2015; 18: 723-8.
- 3) 総務省消防庁: 令和2年版 救急救助の現状. <https://www.fdma.go.jp/publication/rescue/post-2.html> (最終アクセス: 2021.7.9)
- 4) Gaffney P, Johnson G: Paediatric prehospital care: Postal survey of paramedic training managers. Arch Dis Child 2001; 84: 82-3.
- 5) 日本臨床救急医学会小児救急委員会: 小児病院前救護トレーニングコース. <https://ped-em-care.com/ppmec/> (最終アクセス: 2021.7.9)
- 6) Nolan JP, Deakin CD, Soar J, et al: European Resuscitation Council guidelines for resuscitation 2005, Section 4. Adult Advanced life support. Resuscitation 2005; 67: 39-86.
- 7) 酒井和也, 開田千晶, 八木啓一, 他: 横浜マラソン2015における心臓停止対応のための短期研修プログラムの作成. 日臨救急医学会誌 2017; 20: 726-32.
- 8) 福岡龍也, 山田広行, 安心院康彦, 他: PEMECコースの概要と今後の課題. 日臨救急医学会誌 2019; 22: 380-6.
- 9) Toida C, Muguruma T: Prehospital medical equipment for care of pediatric injury patients in Japanese ambulances: A nationwide survey. Acute Med Surg 2023; 7: e005.

【 患者安全推進検討委員会 】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 藤谷 茂樹

【担当理事】 富岡 譲二

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

活動無し

2. 報告内容

活動無し

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

活動計画の予定は無し

【傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生のあり方に関する普及委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 守谷 俊

【担当理事】 守谷 俊 (小委員会・WGは除く)

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容
(開催日) (議事内容)

委員会としては特になし
委員のうち消防の方々を中心に意見聴取を行った。

2. 報告内容

2017年4月に「人生の最終段階にある傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生等のあり方に関する提言」を発表した。2018年7月には全国の消防における実態調査を行なっている。2019年12月には東京消防庁では、心肺蘇生を望まない終末期の人などを対象に、救急搬送時、一定の条件下で、蘇生や病院搬送を中止できる新ルールの実運用を開始した。

心肺蘇生を望まない傷病者の意思に沿った救急現場における対応は、全国的に普及しているとは言えない。今後もさらに傷病者や救急隊のために傷病者の意思に沿った救急現場での対応が望まれる。

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

全国の消防組織のうち、心肺蘇生を望まない傷病者に対する救急現場の対応が整っており、実績のあるMCの情報を調査し浸透を図るための方策を明らかにしていく。

【法執行機関との医療連携のあり方に関する検討委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 大西光雄

【担当理事】 富岡譲二（小委員会・WGは除く）

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

委員会開催：なし（コロナ禍のため開催できず）

2. 報告内容

法執行機関委員および委員以外の法執行機関職員から委員長が個別に直接ヒアリングを行い法執行機関との医療連携に期待されるニーズの把握に努めた。（ヒアリング日：令和3年12月4日、5日 国立病院機構大阪医療センターにおいて警察官、海上保安庁職員、刑務官、消防職員に対して行った。）

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

- ・2020年3月30日に発刊された、コンパクトな手引き書に基づいた法執行機関との医療連携の講習会開催方法を検討する。
- ・年度内に講習会（試行）を開催し、課題を抽出する。
- ・各法執行機関のニーズに合わせた講習が可能か検討する。

【蘇生ガイドラインと救急蘇生法検討委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 真弓 俊彦

【担当理事】 田邊 晴山

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

開催なし

2. 報告内容

JRC 蘇生ガイドライン対応ワーキンググループにて報告

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

JRC 蘇生ガイドライン対応ワーキンググループにて報告

JRC 蘇生ガイドライン対応ワーキンググループ

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 真弓 俊彦

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

開催なし

2. 報告内容

JRC 蘇生ガイドライン 2020 2021年6月発刊

救急蘇生法の指針 2020 市民用、市民用解説編（2021年9月）、医療従事者用（2022年3月）各発刊

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

新規の ILCOR から発表された国際心肺蘇生コンセンサス（CoSTR）の翻訳依頼があった際には、メンバーを募り、翻訳、公開、周知を行う

【バイスタンダー体制検討 WG】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 名知 祥

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日) (議事内容)

※新型コロナウイルス感染症の影響もあり開催なし

※本学会会期中に第1回WG開催予定

2. 報告内容

本ワーキンググループはバイスタンダーの心的ストレスの実態調査や、バイスタンダーに対するサポート体制を検討してきた「バイスタンダーサポート検討小委員会」の後継ワーキンググループとして活動を行う。本ワーキンググループの目的と目標は下記となる。

目的：わが国のバイスタンダー体制の現状を明らかにし、体制の強化を図る

目標：

- ① バイスタンダーによる CPR の実態を明らかにする
- ② バイスタンダーに関する統計データ収集のためのデータ項目と定義を明らかにする
- ③ バイスタンダー支援体制を検討する（小委員会からの引き継ぎ）

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

上記目標を達成するために、年間数回の会議（WEBを含む）を開催する。

＜目標①②について＞

バイスタンダーCPRの実態を明らかにするためには、まず「バイスタンダーCPR」や「口頭指導」の定義を決める必要がある。何を持ってバイスタンダーCPRや口頭指導が行われたとするか、定義について会議棟を通して検討する。

定義を決めることができれば、次はバイスタンダーに関する統計データ収集するためのデータ項目を検討し、消防のウツタインデータ収集項目に追加を目指す。

＜目標③について＞

バイスタンダーサポート検討小委員会の活動を引き継ぎ、

- 1) バイスタンダーの心的ストレスの実態調査
- 2) バイスタンダーの心的ストレスについて、認識を広めるための方策の検討
- 3) バイスタンダーサポートの具体的なシステムの策定

についても、活動を継続していく。

一般社団法人 日本臨床救急医学会

【救急活動時の救急隊の活動向上に向けた検討委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】委員長 田中 秀治

【担当理事】担当理事 田中 秀治 (小委員会・WGは除く)

【活動内容】(令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容 委員メンバーの確定と作業内容の確認
2. 委員会の目的：救急活動における身体的・心理的負荷については救急隊員が解決を望んでいる共通の課題である。消防吏員としてだれもが参加でき安全で安心な環境で働くためのエビデンスを消防本部と協力して学会として作成する。

委員会	敬称略	所属
委員	小笠原 英明	東京消防庁 救急管理係長
委員	上山 正和	札幌市消防局 警防部 救急課長
委員	荒井 勲	仙台市消防局 警防部 救急課長
委員	前田 達也	大阪市消防局 救急部 救急課長
委員	長谷部 宏光	横浜市消防局 救急部 救急課長
委員	射場 俊行	京都市消防局 警防部 救急課長
委員	森田 聖二	名古屋市消防局 救急部 救急課長
委員	中田 徹	広島市消防局 警防部救急担当部長
委員	四島 弘	福岡市消防局 警防部 救急課長
オブザーバー	小塩 真史救急専門官	総務省消防庁 救急企画室
オブザーバー	土屋 翼 専門官	厚生労働省医政局地域医療計画課

小委員会	敬称略	所属
小委員会	救急隊活動におけるパフォーマンス向上検討小委員会	
委員長	田中 秀治	国土舘大学院救急システム研究科
委員	児島 正俊	東京消防庁
委員	匂坂 量	中央大学
委員	竹井 豊	新潟医療福祉大学
委員	田邊 晴山	救急救命東京研修所
委員	植田 広樹	国土舘大学防災救急救助総合研究所

2. 報告内容

令和4年11月 「委員会の設立と会の方針について」
消防本部への参加依頼と委員会メンバーの確定
令和4年1月26日 第1回目会議予定

「救急隊員シンポジウム開催中に委員会開催と参加へのアンケート調査の予定であったが新型コロナウイルス感染症により対面での開催でなくなり中止となった。

【活動計画】（令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日）

1. 救急隊員の身体的負荷・精神的負荷に関する既存研究の整理と論点のとりまとめ
2. 救急隊員の身体的負荷・精神的負荷に関するアンケート調査の実施：全国消防長会の協力で実施
3. 女性救急隊員・ベテラン救急隊員の身体的負荷軽減策や負荷軽減機材などの調査
4. アンケートの集計ならびに解析
5. 解析結果の公表・論文化によるエビデンスの公開（第 26 回日本臨床救急医学会）。
6. 必要に応じて追加調査の実施

【救急隊活動におけるパフォーマンス向上検討小委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】委員長 田中 秀治

【担当理事】担当理事 田中 秀治

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容 委員メンバーの確定と作業内容の確認
2. 委員会の目的：救急活動における身体的・心理的負荷については救急隊員が解決を望んでいる共通の課題である。消防吏員としてだれもが参加でき安全で安心な環境で働くためのエビデンスを消防本部と協力して学会として作成する。
3. 親委員会での検討内容（アンケート・調査など）の調査内容の検討と解析

小委員会	敬称略	所属
小委員会	救急隊活動におけるパフォーマンス向上検討小委員会	
委員長	田中 秀治	国土館大学院救急システム研究科
委員	児島 正俊	東京消防庁
委員	匂坂 量	中央大学理工学部
委員	竹井 豊	新潟医療福祉大学
委員	田邊 晴山	救急救命東京研修所
委員	植田 広樹	国土館大学防災救急救助総合研究所

2. 報告内容

令和4年1月26日 第1回目会議予定

「救急隊員シンポジウム開催中に委員会開催の予定であったが対面での開催でなくなり中止となった。

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

親委員会での検討内容を事前に協議し研究方法の計画・立案・ならびに回収・解析を実施する予定。

5月の親委員会開催に先立ち会議を開催する。また年4回程度のZOOMを含めた検討会を実施する予定

【検討内容】

1. 救急隊員の身体的負荷・精神的負荷に関する既存研究の整理と論点のとりまとめ
2. 救急隊員の身体的負荷・精神的負荷に関するアンケート調査の実施：全国消防長会の協力で実施
3. 女性救急隊員・ベテラン救急隊員の身体的負荷軽減策や負荷軽減機材などの調査
4. アンケートの集計ならびに解析
5. 解析結果の公表・論文化によるエビデンスの公開（第26回日本臨床救急医学会）。
6. 必要に応じて追加調査の実施

【AMLS 第3版編集委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 溝端 康光

【担当理事】 —

【活動内容】（令和3年4月1日～令和4年3月31日迄）

1. 委員会開催日および議事内容

（開催日）

（議事内容）

なし

2. 報告内容

- ・委員および翻訳担当を割り振りした。
- ・出版社による翻訳交渉が難航しているため、翻訳依頼作業を保留とした。

【活動計画】（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

- ・出版社により、翻訳契約に至った場合、翻訳作業を開始する。

以上

一般社団法人 日本臨床救急医学会

【緊急度判定支援システム JTAS2022 ガイドブック 編集委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 奥寺 敬

【担当理事】 ー

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日)

(議事内容)

令和3年9月17日

「編集委員会発足について／JTAS ガイドブック
2017 の改訂点について／発行スケジュールについて／
執筆者について」

令和4年1月20日

「JTAS ガイドブック 2022 の原稿について確認／
今後の予定について」

2. 報告内容

- ・執筆者・監修者を選出し、執筆・監修依頼を行った。
- ・原稿を確認し、委員会で校正した。

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

- ・小委員会による校正を行い、各関連学会に監修を依頼する。
- ・最終校正を行い、10月頃に改訂版を発行する。
- ・改訂された内容に沿って、現行のアプリ「緊急度判定支援システム JTAS2017」の内容を検証する

以上

【PEMEC ガイドブック改訂に関する編集委員会】

報告日：令和4年5月25日

【委員長】 安心院 康彦

【担当理事】 ー

【活動内容】 (令和3年4月1日～令和4年3月31日迄)

1. 委員会開催日および議事内容

(開催日)

(議事内容)

なし

2. 報告内容

- ・委員会の設置が理事会で承認された。

【活動計画】 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

- ・編集委員会を開催し、2017年に発行された『PEMEC ガイドブック 2017』の改訂作業を行う。
- ・執筆、監修者を選定する。
- ・2023年4月頃に改訂版の『PEMEC ガイドブック 2023』を発行する。

以上